

前田本色葉字類抄の東声について

二戸麻砂彦

A Study of the Tone ‘Tō-syō’ in ‘Iroha-jiruisyō’

NITO Masahiko

Abstract

Dictionaries in Ancient Japanese have been influenced by Chinese Dictionaries. These are divided into three classes, Bushu (部首: parts of Kanji), Igi (意義: meanings of Kanji) and Jion (字音: readings of Kanji) from the point of view about the search systems. These systems were not fit for Japanese Language. And so, Dictionaries by the use of Iroha (イロハ) search system were composed in late Heian period. “Iroha-jiruisyō” is one of them. This study analyzes the tone ‘Tō-syō’ (東声) in “Iroha-jiruisyō”.

キーワード: 色葉字類抄、東声、平声軽、日本漢字音

key words: Iroha-jiruisyō, Tō-syō, Hyōsyō-karu, Sino-Japanese

- 0 はじめに
- 1 声調における東声
- 2 前田本色葉字類抄の東声一覧
- 3 上巻に付載する東声の分析
- 4 下巻に付載する東声の分析
- 5 まとめ

0 はじめに⁰⁰⁾

尊経閣文庫蔵本(前田家旧蔵三巻本、前田本と以下略称する)『色葉字類抄』⁰¹⁾は中巻等を欠いているが、世俗および色葉字類抄(字類抄諸本⁰²⁾と総称する)の中核的な一諸本として、重要な位置を占めている。字類抄諸本の編纂初期段階における最大の特徴は、いわゆる「色葉和名」という基準に基づく和訓語彙の蒐集にある。さらなる利便性の高い要求があったのであろう、増補改訂段階になると、和訓の確認とともに、より多くの掲出字の字音を求める場面もあったはずである。それに応えて、増補改訂の早い段階における字音の把握は反切・同音字注を用いたと推測する。しかし、字音語の充実という観点から、仮名音注の増補に踏み切ったと想定できる。これは増補改訂の後段に当たると考えられる。実用的な字音把握を可能とするため、より日本語に馴化した仮名のレベルによる標音を目指したわけである。このような仮名音注の増補と並行的に当該字の声調を声点によって明示することも行われた。その声調体系は四声(平・上・去・入)を基本としているようであるが、東声(平声軽)と徳声(入声軽)と認められる諸例がある。本稿では東声に関わる分析を試みたい。

1 声調における東声

日本語史において、中国語音を移入し馴化・定着させることは多くの困難をともなった。何より、それぞれの音節構造に相当な違いがある。中国語は下記のような単音節構造 IMVF/T を特徴とする。これに対して、日本語は開音節 CV (子音 consonant + 母音 vowel) であり、単純な移入を許さない。加えて、同じ高低アクセント (pitch accent) でありながらも、単音節全体を覆う声調の学習には、かなりの労力を必要とした。そのためか、いわゆる呉音の声調においては、四声が知識的な学習対象とされずに伝承し、いわゆる漢音の声調体系を持ちこむことにより、字音の把握を再度し直したのではないかと想定している。これまでの研究成果を集約しながら、いわゆる呉音と漢音それぞれの声調に関する日本漢字音の状況をまとめておく。

I	Initial	頭子音	声母
M	Medial	介音(韻頭)	韻母
V	Principal Vowel	主母音(韻腹)	
F	Final	末子音(韻尾)	
T	Tone	声調	

いわゆる日本呉音の声調を示す文献は平安時代後期以降のもの(大般若経読誦資料、法華経読誦資料、類聚名義抄の和音など)しか見出すことができないため、反映する呉音の声調は日本語に馴化した状態であることが考えられる。その点を考慮しながら、すでに重要な研究が公にされた。まず、類聚名義抄における和音・呉音の声調表示を集約すれば、次のような結論を得ることが指摘(これを要するに、類聚名義抄で「和音」「呉音」と示された漢字音において、少なくともその声調体系は共に等しく上声文字群の存在しない三声体系であったと考えられるのである。)⁰³⁾されている。法華経音読においても、この指摘は基本的に適用⁰⁴⁾される。また別の分析で言えば、日本呉音の声調において「上声」と「去声」とは allotones の関係にあった。さらに注目すべき指摘(「東声」「徳声」は卓立協調の音調を表すために用いられ、日本呉音の「字音」としての声調ではなかった)⁰⁵⁾も示されている。

いわゆる日本漢音の声調については六声体系を基本とする。中古音の調類である四声(平・上・去・入)は日本漢音においても平・上・去・入として対応する。ただし、平声と入声はそれぞれ二種類に下位区分される。これを「軽」と「重」という術語で区別する。その中でも、平声軽は東声、入声軽は徳声と称する。また、中国語音韻史上の中古音が示す頭子音(声母)の清濁によって、東声と平声および徳声と入声が識別される。以下に、まとめと置く。⁰⁶⁾なお、切韻を撰述して以降の中国語では、上声濁が次第に去声化を起こした状態を示す。以下の斜線部分であり、その移行過程を日本漢音が反映している。

	清	次清	清濁	濁
平声	平声軽(東声)		平声重(平声)	
上声	上声			
去声	去声			
入声	入声軽(徳声)		入声重(入声)	

この日本漢音における六声体系が示す調類は次のような調値であったと考えられる。なお、●は高いモーラ、○は低いモーラであることを示す。また、括弧内は一音節(一字仮名)の場合を、▶と▷は入声の末子音(韻尾)を指す。日本語への移入と馴化の過程で、音節あるいはモーラの相対的な高低で把

握されたことになる。なかでも、東声（平声軽）の調値は下降調であったと推定⁰⁷⁾されている。また、徳声（入声軽）の調値は短促を特徴とした閉音節（1音節）の高平調、あるいは開音節化した2モーラの高平調〔上上〕と推定⁰⁸⁾されている。

平声重	=○○ 低平調 (○)
平声軽 (東声)	=●○ 下降調 (◐)
上声	=●● 高平調 (●)
去声	=○● 上昇調 (◑)
入声重	=○▷ 低平調
入声軽 (徳声)	=●▶ 高平調

2 前田本色葉字類抄の東声一覧

活字媒体や情報機器等において漢字を表示する場合、原則的には正方形を意識しながら作成されている。これは手書きによる長い書写の歴史を踏まえてのことと認められる。字画数が多く、また複雑な字形であっても、正方形に収めようとする傾向に変わりはない。ただし、手書きによる個別の字形においては縦長になるなど、結果として正方形にならない場合も想定できる。その場合、声点を差す位置の認定に困難を伴うことがある。平声であるのか、東声であるのか、恣意的にならないよう分析しなければならない。

以下、前田本色葉字類抄における東声の所載例を掲げる。上巻は【表1】として、下巻は【表2】として集約した。表の構成を示しておく。なお、当該の所載例と同音の諸例も掲げた。

番号 → 前田本色葉字類抄において、音注（反切・同音字注・仮名音注・声点）を含む当該の掲出字それぞれに通し番号を付した。この中から、東声の諸例および同音の諸例を集約している。

* 熟字の場合、a（第1字）b（第2字）c（第3字）d（第4字）を加えた。

所在 → 巻、篇、帖数、表裏、行数、部の順。

* 篇はイロハ順、部は意義分類を指す。

掲出字 → 見出し語。単字および熟字（二字以上）。

* JIS外漢字は「部首+諧声符」のように表示した。⁰⁹⁾

右注 → 双行または三行による割注の右を右注と略す。

中注 → 三行割注の中央を中注と略す。付注頻度は低い。

左注 → 双行または三行による割注の左を左注と略す。

右傍 → 掲出字の右側を右傍と略す。

左傍 → 掲出字の左側を左傍と略す。

中古音 → 三根谷説¹⁰⁾による中国語音韻史上における中古漢語の推定音。

韻目 → 切韻系韻書による所属韻。

【表1】

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
0233a	上伊・012ウ1・疊字	幽	東	イウ	左注	'ieu ¹	幽韻
0238a	上伊・012ウ2・疊字	幽	東	イウ	右注	'ieu ¹	幽韻
0239a	上伊・012ウ2・疊字	幽	東	イウ	左注	'ieu ¹	幽韻
0246a	上伊・012ウ4・疊字	幽	東	イウ	左注	'ieu ¹	幽韻
0321a	上伊・013ウ6・疊字	幽	東	イウ	左注	'ieu ¹	幽韻
0324a	上伊・013ウ6・疊字	幽	東	イウ	中注	'ieu ¹	幽韻
1136	上保・045ウ7・方角	幽	平	—	—	'ieu ¹	幽韻
0438b	上呂・019オ2・疊字	呼	東	コ	中注	xuɿ ¹	模韻
0468b	上波・020オ4・天象	光	東	—	右傍	kuɑŋ ^{1/3}	唐/宕韻
1758b	上池・067オ6・人事	光	東	—	—	kuɑŋ ^{1/3}	唐/宕韻
6502b	下世・106ウ6・地儀	光	東	—	—	kuɑŋ ^{1/3}	唐/宕韻
4639b	下佐・050ウ7・疊字	光	東	—	—	kuɑŋ ^{1/3}	唐/宕韻
3123b	上加・110オ6・疊字	光	去	クワウ	右注	kuɑŋ ^{1/3}	唐/宕韻
4967b	下木・060ウ7・疊字	光	平	—	—	kuɑŋ ^{1/3}	唐/宕韻
6192	下飛・095オ4・光彩	光	平	クワウ	右傍	kuɑŋ ^{1/3}	唐/宕韻
5226b	下由・066ウ4・人躰	胱	平	クワウ	右傍	kuɑŋ ¹	唐韻
2351a	上和・088オ7・雑物	横	平	クワウ	右傍	kuɑŋ ¹ ɣuɑŋ ^{1/3}	唐韻 庚/映韻
2351a	上和・088オ7・雑物	横	平	クワウ	右傍	kuɑŋ ¹ ɣuɑŋ ^{1/3}	唐韻 庚/映韻
3222a	上与・115ウ4・雑物	横	平	クワウ	右傍	kuɑŋ ¹ ɣuɑŋ ^{1/3}	唐韻 庚/映韻
1096	上保・044オ7・飲食	月+肅	東	—	—	ʃiɿu ¹	尤韻
5228	下由・066ウ5・人躰	洩	平	シウ	右傍	ʃiɿu ^{1/2}	尤/有韻
2619	上加・096ウ5・人事	蒐	平	シウ	右傍	ʃiɿu ¹	尤韻
3789	下江・016オ7・辞字	蒐	平	シウ	右傍	ʃiɿu ¹	尤韻
1121	上保・045ウ1・光彩	炎	東?	エム	右傍	ɣiam ¹	鹽韻
1909a	上池・070ウ2・疊字	珍	東	チン	左注	ʈien ¹	眞韻
1910a	上池・070ウ2・疊字	珍	東	チン	左注	ʈien ¹	眞韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
1911a	上池・070ウ2・疊字	珍	東	チン	左注	tʃien ¹	眞韻
1912a	上池・070ウ3・疊字	珍	東	チン	左注	tʃien ¹	眞韻
1941a	上池・071オ1・疊字	珍	東	チン	右注	tʃien ¹	眞韻
1768a	上池・067ウ4・雑物	鎮	平	チン	右注	tʃien ¹	眞韻
1812a	上池・069オ4・疊字	鎮	平	チン	左注	tʃien ¹	眞韻
1813a	上池・069オ4・疊字	鎮	平	チン	右注	tʃien ¹	眞韻
1815a	上池・069オ4・疊字	鎮	平	チン	右注	tʃien ¹	眞韻
2641	上加・097ウ3・人事	嘈	東?	サウ	右傍	dzau ¹	豪韻
4568	下佐・047オ5・雑物	槽	平	サウ	右傍	dzau ¹	豪韻
6810b	下洲・114ウ2・植物	螯	平	サウ	右傍	dzau ¹	豪韻
3009a	上加・108ウ4・疊字	高	東	カウ	左注	kau ¹	豪韻
3012a	上加・108ウ4・疊字	高	東	カウ	左注	kau ¹	豪韻
3014a	上加・108ウ5・疊字	高	東	カウ	左注	kau ¹	豪韻
3029a	上加・109オ1・疊字	高	(東)	カウ	左注	kau ¹	豪韻
3041a	上加・109オ3・疊字	高	東	カウ	左注	kau ¹	豪韻
3085a	上加・109ウ5・疊字	高	東	カウ	右注	kau ¹	豪韻
4353	下阿・038ウ5・辞字	膏	東	—	—	kau ¹	豪韻
2704a	上加・099オ3・雑物	高	去	カウ	左注	kau ¹	豪韻
2853a	上加・106ウ1・疊字	高	去	—	—	kau ¹	豪韻
2866a	上加・106ウ3・疊字	高	平	カウ	左注	kau ¹	豪韻
2931a	上加・107ウ2・疊字	高	去	カウ	左注	kau ¹	豪韻
2971a	上加・108オ3・疊字	高	平	カウ	左注	kau ¹	豪韻
2972a	上加・108オ3・疊字	高	去	カウ	左注	kau ¹	豪韻
2987a	上加・108オ6・疊字	高	去	カウ	左注	kau ¹	豪韻
3058a	上加・109オ7・疊字	高	平	カウ	左注	kau ¹	豪韻
3059a	上加・109オ7・疊字	高	去	カウ	左注	kau ¹	豪韻
3080a	上加・109ウ4・疊字	高	去	カウ	右注	kau ¹	豪韻
2865a	上加・106ウ3・疊字	膏	平	カウ	左注	kau ¹	豪韻
4187	下阿・029オ3・人躰	膏	平	カウ	右傍	kau ¹	豪韻
4553b	下佐・046ウ4・飲食	膏	平	—	—	kau ¹	豪韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
4436	下佐・042ウ1・地儀	皐	平	カウ	右傍	kau ¹	豪韻
6084	下飛・092オ2・動物	羔	平	カウ	右傍	kau ¹	豪韻
6430	下毛・102ウ7・飲食	饅	平	カウ	右傍	kau ¹	豪韻
3117a	上加・110オ4・疊字	函	東?	カム	右注	ɣʌm ¹ ɣem ¹	覃韻
0673	上波・027オ3・雑物	函	平	カム	右傍	ɣʌm ¹ ɣem ¹	覃韻
2463a	上加・092オ4・地儀	含	平	カム	右傍	ɣʌm ¹	覃韻
2887a	上加・106ウ7・疊字	含	平	カム	中注	ɣʌm ¹	覃韻
2464a	上加・092オ7・植物	答	平	カム	右注	ɣʌm ¹	覃韻
3137a	上加・110ウ3・疊字	蕭	東	セウ	右傍	seu ¹	蕭韻
0491	上波・020ウ7・植物	蕭	平	セウ	右傍	seu ¹	蕭韻
6720a	下世・112オ1・疊字	蕭	平	—	—	seu ¹	蕭韻
6739a	下世・112オ5・疊字	蕭	平	セウ	右傍	seu ¹	蕭韻
3188	上与・113ウ6・植物	蕭	平	カウ	右傍	seu ¹	蕭韻
5242	下由・067ウ4・雑物	彌	平	—	—	seu ¹	蕭韻
6542	下世・108ウ6・雑物	簫	東 去	セウ	右傍	seu ¹	蕭韻
3187	上与・113ウ6・植物	蒿	東	カウ	右傍	xau ¹	豪韻

* 3029a「高」は掲出字の左部分に欠損があり、括弧で囲み、その東声は推定であることを示す。

【表2】

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
3321a	下古・002ウ1・植物	茭	東	カウ	右傍	kau ¹	肴韻
0309b	上伊・013ウ3・疊字	交	平	カウ	左注	kau ¹	肴韻
2979a	上加・108オ5・疊字	交	平	カウ	左注	kau ¹	肴韻
2982a	上加・108オ5・疊字	交	平	カウ	左注	kau ¹	肴韻
6737b	下世・112オ4・疊字	交	上	カウ	右注	kau ¹	肴韻
5230b	下由・067オ1・人事	蛟	去	カウ	右傍	kau ¹	肴韻
0072a	上伊・004ウ1・動物	鳩	平	カウ	右傍	kau ¹	肴韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
4494	下佐・044 オ 7・動物	鮫	平	カウ	右傍	kau ¹	肴韻
2433	上加・091 ウ 4・地儀	郊	—	カウ [上平]	右注	kau ¹	肴韻
0677	上波・027 オ 5・雑物	鮫	去	カウ	右傍	kau ¹	肴韻
0967	上仁・038 オ 6・雑物	膠	平	カウ	右傍	kau ¹	肴韻
2974a	上加・108 オ 4・疊字	膠	平	カウ	左注	kau ¹	肴韻
2980a	上加・108 オ 5・疊字	膠	平	カウ	左注	kau ¹	肴韻
2981a	上加・108 オ 5・疊字	膠	平	カウ	左注	kau ¹	肴韻
6400b	下毛・101 オ 7・植物	膠	平	—	—	kau ¹	肴韻
2364	上和・089 ウ 3・辞字	摻	平	リウ	右傍	kau ¹	肴韻
0750b	上波・031 ウ 5・疊字	教	平	ケウ	右注	kau ¹	肴韻
3014b	上加・108 ウ 5・疊字	教	平	カウ	左注	kau ¹	肴韻
5569b	下師・079 ウ 6・疊字	教	平濁	ケウ	右注	kau ¹	肴韻
3400	下古・005 オ 5・人事	辭	平 東	—	—	ziei ¹	之韻
3401	下古・005 オ 5・人事	辭	東	—	—	ziei ¹	之韻
5489	下師・075 ウ 4・辞字	辭	—	シ [平濁]	中注	ziei ¹	之韻
3399	下古・005 オ 5・人事	詞	平	シ	右傍	ziei ¹	之韻
5712a	下師・082 ウ 7・疊字	詞	平	—	—	ziei ¹	之韻
5714a	下師・083 オ 1・疊字	詞	平	シ	左注	ziei ¹	之韻
5715a	下師・083 オ 1・疊字	詞	平	—	—	ziei ¹	之韻
3632b	下古・010 ウ 7・疊字	生	東	—	—	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
4695b	下佐・051 ウ 4・疊字	生	東	—	—	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
1046b	上保・042 オ 5・植物	生	平	—	—	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
1854b	上池・069 ウ 5・疊字	生	上	セイ	左注	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
3003b	上加・108 ウ 2・疊字	生	上	シヤウ	左注	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
4100a	下阿・026 オ 4・植物	生	平	セイ	右傍	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
5088b	下木・062 ウ 6・疊字	生	上	—	—	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
5810a	下師・084 ウ 2・疊字	生	去	シヤウ	右注	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
5863b	下師・085 オ 3・疊字	生	平	セイ	右傍	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
6349b	下飛・099 オ 4・疊字	生	上	—	—	ʃaŋ ^{1/3}	庚/映韻
5410	下師・073 ウ 6・雑物	笙	東	セイ	右傍	ʃaŋ ¹	庚韻
5411	下師・073 ウ 6・雑物	笙	東	シヤウ	右注	ʃaŋ ¹	庚韻
0162	上伊・008 オ 7・飲食	牲	平	セイ	右傍	ʃaŋ ¹	庚韻
5309	下師・070 オ 5・動物	猩	平	セイ	右傍	ʃaŋ ¹	庚韻
2234	上遠・081 オ 3・人倫	甥	平	セイ	右傍	ʃaŋ ¹	庚韻
3371	下古・004 オ 3・人倫	甥	平	セイ	右傍	ʃaŋ ¹	庚韻
5035b	下木・061 ウ 7・疊字	甥	上	セイ	左注	ʃaŋ ¹	庚韻
3667b	下古・011 ウ 1・疊字	心	東	—	—	siem ¹	侵韻
0285b	上伊・013 オ 4・疊字	心	去	—	—	siem ¹	侵韻
0799b	上波・032 ウ 1・疊字	心	平濁	シム	中注	siem ¹	侵韻
1607b	上度・062 ウ 2・疊字	心	上濁	シン	右注	siem ¹	侵韻
2936b	上加・107 ウ 3・疊字	心	平	シム	左注	siem ¹	侵韻
2941b	上加・107 ウ 4・疊字	心	平濁	シム	中注	siem ¹	侵韻
2953b	上加・107 ウ 7・疊字	心	平	シム	左注	siem ¹	侵韻
2964b	上加・108 オ 2・疊字	心	平	シム	左注	siem ¹	侵韻
3035b	上加・109 オ 2・疊字	心	上濁	シム	右注	siem ¹	侵韻
3087b	上加・109 ウ 5・疊字	心	上濁	シム	右注	siem ¹	侵韻
3106b	上加・110 オ 2・疊字	心	上濁	シム	右注	siem ¹	侵韻
3241b	上与・117 ウ 2・疊字	心	去	シム	左注	siem ¹	侵韻
3270b	上与・118 オ 1・疊字	心	去	シム	右注	siem ¹	侵韻
3378	下古・004 オ 6・人躰	心	平	—	—	siem ¹	侵韻
5104b	下木・063 オ 3・疊字	心	平	—	—	siem ¹	侵韻
5381a	下師・073 オ 2・人事	心	平	—	—	siem ¹	侵韻
5619a	下師・081 オ 6・疊字	心	平	—	—	siem ¹	侵韻
5621a	下師・081 オ 6・疊字	心	平	シン	左注	siem ¹	侵韻
5623a	下師・081 オ 7・疊字	心	上	—	—	siem ¹	侵韻
5646a	下師・081 ウ 5・疊字	心	去	シム	左注	siem ¹	侵韻
5653a	下師・081 ウ 7・疊字	心	平	—	—	siem ¹	侵韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
5654a	下師・081ウ7・疊字	心	平	—	—	siem ¹	侵韻
5670b	下師・082オ3・疊字	心	去濁	シム	左注	siem ¹	侵韻
5819a	下師・084ウ3・疊字	心	去	シム	左注	siem ¹	侵韻
5354a	下師・071ウ6・人躰	浸	—	心 [平]	—	ts'iem ¹ tsiem ³	侵韻 沁韻
3671b	下古・011ウ2・疊字	山	東	—	—	ʃen ¹	山韻
4752a	下佐・052ウ5・疊字	山	東	サン	右傍	ʃen ¹	山韻
0885b	上波・033ウ4・疊字	山	平	サン	右注	ʃen ¹	山韻
1157b	上保・047オ4・疊字	山	平	サン	左注	ʃen ¹	山韻
1632b	上度・063オ1・疊字	山	平濁	サン	中注	ʃen ¹	山韻
2130b	上利・075ウ6・疊字	山	平	サン	左注	ʃen ¹	山韻
2291a	上和・086オ2・植物	山	平	サン	右傍	ʃen ¹	山韻
3830b	下江・017オ6・疊字	山	平	サン	右傍	ʃen ¹	山韻
4114a	下阿・026ウ3・植物	山	平	サン	右傍	ʃen ¹	山韻
4481b	下佐・044オ3・動物	山	平	サン	右傍	ʃen ¹	山韻
4542a	下佐・046オ7・人事	山	平	—	—	ʃen ¹	山韻
4646a	下佐・051オ1・疊字	山	平	—	—	ʃen ¹	山韻
4647a	下佐・051オ1・疊字	山	平	—	—	ʃen ¹	山韻
4648a	下佐・051オ2・疊字	山	平	—	—	ʃen ¹	山韻
4649a	下佐・051オ2・疊字	山	平	サン	左注	ʃen ¹	山韻
4650a	下佐・051オ2・疊字	山	平	—	—	ʃen ¹	山韻
4677a	下佐・051ウ1・疊字	山	平	—	—	ʃen ¹	山韻
5995b	下會・089オ6・疊字	山	平	—	—	ʃen ¹	山韻
6592b	下世・110オ6・疊字	山	平	—	—	ʃen ¹	山韻
4199	下阿・029オ6・人躰	疝	平	サン	右傍	ʃen ¹	山韻
5344	下師・071ウ3・人躰	疝	平	サン	右傍	ʃen ¹	山韻
3788	下江・016オ7・辭字	簡	東?	—	—	ken ²	産韻
1638b	上度・063オ2・疊字	簡	上	カン	中注	ken ²	産韻
1934b	上池・070ウ7・疊字	簡	平	カン	右注	ken ²	産韻
2906a	上加・107オ4・疊字	簡	上	カン	中注	ken ²	産韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
3025a	上加・108ウ7・疊字	簡	上	カン	左注	ken2	産韻
3097a	上加・109ウ7・疊字	簡	上	カン	右注	ken2	産韻
5708b	下師・082ウ6・疊字	簡	平	カン	右傍	ken2	産韻
3883	下手・019オ2・地儀	亭	東?	テイ [平平]	左注	den ¹	青韻
0505a	上波・021オ4・植物	亭	去濁	チャウ	右傍	den ¹	青韻
3939a	下手・021ウ7・疊字	亭	平	テイ	左注	den ¹	青韻
4016a	下手・023オ3・疊字	亭	平	—	—	den ¹	青韻
0482	上波・020ウ3・地儀	庭	平	テイ	右傍	den ¹	青韻
0925b	上仁・036オ2・地儀	庭	平	テイ	右傍	den ¹	青韻
0968a	上仁・038オ6・雑物	庭	平	テイ	右傍	den ¹	青韻
1087b	上保・044オ2・人事	庭	平	テイ	右傍	den ¹	青韻
1578b	上度・062オ3・疊字	庭	平	テイ	左注	den ¹	青韻
1905a	上池・070ウ1・疊字	停	上	チャウ	左注	den ¹	青韻
1906a	上池・070ウ1・疊字	停	上	チャウ	左注	den ¹	青韻
4023a	下手・023オ4・疊字	停	平	テイ	左注	den ¹	青韻
0004	上伊・002オ4・天象	霆	平	テイ	右傍	den ^{1/2}	青韻 廻韻
1779	上池・068オ1・員數	挺	平	チャウ	右注	den ^{1/2}	青/廻韻
6010b	下會・089ウ2・疊字	挺	—	テイ	右注	den ^{1/2}	青/廻韻
1453b	上度・055ウ4・動物	蜓	去	テイ	右傍	den ^{1/2} den ²	青/廻韻 銑韻
3955b	下手・022オ3・疊字	廷	去	テイ	左注	den ^{1/3}	宵/證韻
3921a	下手・021オ2・雑物	刁	東	テウ [上平]	左注	teu ¹	蕭韻
4571	下佐・047オ5・雑物	刁	東	テウ	右傍	teu ¹	蕭韻
3890	下手・019オ7・動物	貂	平	テウ	右傍	teu ¹	蕭韻
3944a	下手・022オ1・疊字	凋	平	テウ	左注	teu ¹	蕭韻
5986	下會・089オ2・辞字	彫	平	テウ	右傍	teu ¹	蕭韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
3999a	下手・022 ウ5・疊字	鳥	東? 上 徳?	—	—	teu ²	篠韻
0441b	上呂・019 オ3・疊字	鳥	上	テウ	中注	teu ²	篠韻
1663b	上度・063 オ7・疊字	鳥	上	テウ	中注	teu ²	篠韻
3904a	下手・020 オ7・人事	鳥	上	—	—	teu ²	篠韻
5231b	下由・067 オ1・人事	鳥	上	—	—	teu ²	篠韻
5381c	下師・073 オ2・人事	鳥	上	—	—	teu ²	篠韻
4050	下阿・024 ウ1・天象	嵐	東?	ラム	右傍	lɒm ¹	覃韻
4167a	下阿・028 ウ1・人倫	商	東	シヤウ	右傍	šiaŋ ¹	陽韻
5788a	下師・084 オ5・疊字	商	東	シヤウ	右注	šiaŋ ¹	陽韻
4059	下阿・024 ウ2・天象	商	東	シヤウ	右傍	šiaŋ ¹	陽韻
0057a	上伊・004 オ1・植物	商	平	シヤウ	右傍	šiaŋ ¹	陽韻
6639a	下師・079 オ1・疊字	商	平	シヤウ	右注	šiaŋ ¹	陽韻
0128	上伊・006 ウ5・人事	傷	平	シヤウ	右傍	šiaŋ ^{1/3}	陽/漾韻
1011b	上仁・040 オ7・疊字	傷	上濁	シヤウ	左注	šiaŋ ^{1/3}	陽/漾韻
4375b	下阿・039 ウ1・疊字	傷	平	シヤウ	左注	šiaŋ ^{1/3}	陽/漾韻
4562	下佐・047 オ1・雑物	觴	平	シヤウ	右傍	šiaŋ ¹	陽韻
5659a	下師・082 オ1・疊字	觴	平	シヤウ	左注	šiaŋ ¹	陽韻
5521a	下師・078 ウ2・重點	湯	東	シヤウ	右注	šiaŋ ¹	陽韻
5521b	下師・078 ウ2・重點	湯	東	シヤウ	右注	šiaŋ ¹	陽韻
0928	上仁・036 オ2・地儀	場	去	チヤウ	右傍	šiaŋ ¹	陽韻
4391a	下阿・039 ウ5・疊字	支	東	シ	右傍	tšie ¹	支韻
3787	下江・016 オ5・光彩	支	平	—	—	tšie ¹	支韻
5628a	下師・081 ウ1・疊字	支	平	シ	右注	tšie ¹	支韻
5642a	下師・081 ウ4・疊字	支	平	—	—	tšie ¹	支韻
5747a	下師・083 ウ2・疊字	支	平	シ	左注	tšie ¹	支韻
0897b	上波・033 ウ7・疊字	枝	平	シ	左注	tšie ¹	支韻
0903b	上波・034 オ1・疊字	枝	平	シ	左注	tšie ¹	支韻
3748	下江・014 ウ2・植物	枝	平	シ	右傍	tšie ¹	支韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
5187b	下木・064 オ 7・疊字	枝	上	シ	右注	tšie ¹	支韻
5974b	下會・087 ウ 7・植物	枝	平	シ	右傍	tšie ¹	支韻
3764	下江・015 オ 5・人躰	肢	平	シ	右傍	tšie ¹	支韻
4526	下佐・045 ウ 7・人事	禊	平	—	—	tšie ¹	支韻
5121a	下木・063 オ 7・疊字	楮	平	キ	中注	tšie ¹	支韻
6778a	下洲・113 ウ 2・地儀	楮	平	シ	右傍	tšie ¹	支韻
4392a	下阿・039 ウ 5・疊字	周	東	シウ	右傍	tšiu ¹	尤韻
5851a	下師・085 オ 1・疊字	周	東	シウ	右傍	tšiu ¹	尤韻
1128	上保・045 ウ 6・方角	周	平	シウ	右傍	tšiu ¹	尤韻
1464a	上度・056 ウ 1・人事	周	平	シウ	右傍	tšiu ¹	尤韻
5567a	下師・079 ウ 5・疊字	周	去	シユ	右注	tšiu ¹	尤韻
5784a	下師・084 オ 4・疊字	周	平	シウ	右注	tšiu ¹	尤韻
5829a	下師・084 ウ 5・疊字	周	去	シウ	右注	tšiu ¹	尤韻
5845a	下師・084 ウ 7・疊字	周	平	シウ	右傍	tšiu ¹	尤韻
2654b	上加・098 オ 1・人事	州	平	シウ	左注	tšiu ¹	尤韻
4537c	下佐・046 オ 5・人事	州	平	シウ	左注	tšiu ¹	尤韻
0169	上伊・008 ウ 3・雜物	洲	平	—	—	tšiu ¹	尤韻
0457b	上呂・019 オ 6・疊字	洲	平	シウ	右注	tšiu ¹	尤韻
4974b	下木・061 オ 1・疊字	洲	平	—	—	tšiu ¹	尤韻
6748b	下世・112 オ 7・疊字	洲	平	シウ	右傍	tšiu ¹	尤韻
4786b	下佐・053 オ 6・疊字	舟	平	シウ	右注	tšiu ¹	尤韻
6153a	下飛・094 オ 7・雜物	舟	平	—	—	tšiu ¹	尤韻
4492a	下佐・044 オ 6・動物	三	東	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4639a	下佐・050 ウ 7・疊字	三	東	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4781a	下佐・053 オ 5・疊字	三	東	サム	右注	sam ^{1/3}	談/闕韻
4540a	下佐・046 オ 6・人事	三	平	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4587a	下佐・047 ウ 3・雜物	三	平	サム [平平]	右注	sam ^{1/3}	談/闕韻
4588a	下佐・047 ウ 4・雜物	三	—	サム [平平]	右注	sam ^{1/3}	談/闕韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
4658a	下佐・051 オ4・疊字	三	去	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4659a	下佐・051 オ4・疊字	三	去	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4663a	下佐・051 オ5・疊字	三	去	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4665a	下佐・051 オ5・疊字	三	去	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4668a	下佐・051 オ6・疊字	三	平	サム	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4711a	下佐・052 オ1・疊字	三	去	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
4759a	下佐・052 ウ6・疊字	三	去	—	—	sam ^{1/3}	談/闕韻
1722b	上池・065 ウ6・植物	參	平	—	—	sam ¹ ts'ʌm ^{1/3}	談韻 覃/勘韻
4690b	下佐・051 ウ3・疊字	參	平	—	—	sam ¹ ts'ʌm ^{1/3}	談韻 覃/勘韻
4769a	下佐・053 オ2・疊字	參	平	サム	左注	sam ¹ ts'ʌm ^{1/3}	談韻 覃/勘韻
4771a	下佐・053 オ2・疊字	參	平	サム	左注	sam ¹ ts'ʌm ^{1/3}	談韻 覃/勘韻
5188b	下木・064 オ7・疊字	園	東?	エン	右注	ɣiuan ¹	元韻
1667b	上度・063 ウ1・疊字	園	平	エン	左注	ɣiuan ¹	元韻
2442	上加・091 ウ7・地儀	垣	平	ワン	右傍	ɣiuan ¹	元韻
5276a	下師・069 オ6・植物	垣	平	エン	右傍	ɣiuan ¹	元韻
6006a	下會・089 ウ1・疊字	垣	平	エン	中注	ɣiuan ¹	元韻
4484	下佐・044 オ3・動物	猿	平	エン	右注	ɣiuan ¹	元韻
4482	下佐・044 オ3・動物	猿	平	エン	右傍	ɣiuan ¹	元韻
4489a	下佐・044 オ5・動物	猿	平	エン	右傍	ɣiuan ¹	元韻
6004a	下會・089 ウ1・疊字	猿	平	—	—	ɣiuan ¹	元韻
5213b	下由・065 ウ7・天象	昏	東	コン	右傍	xuan ¹	魂韻
5533b	下師・078 ウ7・疊字	昏	東濁	コン	左注	xuan ¹	魂韻
1471	上度・056 ウ3・人事	婚	平	コン	右傍	xuan ¹	魂韻
5382b	下師・073 オ2・人事	金	東?	キム	中注	kiem ¹	侵韻
0154b	上伊・008 オ1・人事	金	平	キム	右注	kiem ¹	侵韻
1065a	上保・043 オ2・人倫	金	去	コン	右傍	kiem ¹	侵韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
3311a	下古・002 オ 2・地儀	金	去	コム	右傍	kiem ¹	侵韻
3329a	下古・002 ウ 3・植物	金	平	キム	右傍	kiem ¹	侵韻
3330a	下古・002 ウ 3・植物	金	平	コム	右注	kiem ¹	侵韻
3341a	下古・002 ウ 7・植物	金	去	コム	左注	kiem ¹	侵韻
3428a	下古・006 ウ 5・雑物	金	去	コム [平平]	右注	kiem ¹	侵韻
3437	下古・006 ウ 7・雑物	金	平 去	コム	右注	kiem ¹	侵韻
3439a	下古・007 オ 1・雑物	金	去	コム	右傍	kiem ¹	侵韻
3440a	下古・007 オ 1・雑物	金	去	コム [平上]	右注	kiem ¹	侵韻
3442a	下古・007 オ 1・雑物	金	平	コム [平上]	左注	kiem ¹	侵韻
3572a	下古・007 ウ 4・光彩	金	去	クム	右注	kiem ¹	侵韻
3603a	下古・010 ウ 1・疊字	金	去	コム	左注	kiem ¹	侵韻
3604a	下古・010 ウ 1・疊字	金	去	—	—	kiem ¹	侵韻
3605a	下古・010 ウ 1・疊字	金	去	—	—	kiem ¹	侵韻
4933a	下木・058 ウ 3・雑物	金	—	キム [平平]	右注	kiem ¹	侵韻
4963a	下木・060 ウ 6・疊字	金	平	キム	右傍	kiem ¹	侵韻
5189a	下木・064 オ 7・疊字	金	平	キム	右注	kiem ¹	侵韻
6151a	下飛・094 オ 6・雑物	金	去	コム	右傍	kiem ¹	侵韻
6531b	下世・108 オ 7・人事	金	平濁	—	—	kiem ¹	侵韻
3592a	下古・010 オ 5・疊字	今	去	—	—	kiem ¹	侵韻
3625b	下古・010 ウ 6・疊字	今	平	—	—	kiem ¹	侵韻
5000a	下木・061 オ 7・疊字	今	去	—	—	kiem ¹	侵韻
5024a	下木・061 ウ 5・疊字	今	去	キン	—	kiem ¹	侵韻
6159a	下飛・094 ウ 2・雑物	衿	平	キム	右傍	kiem ¹	侵韻
5094a	下木・062 ウ 7・疊字	禁	平	キン	左注	kiem ¹	侵韻
5095a	下木・063 オ 1・疊字	禁	平	キン	左注	kiem ¹	侵韻
5097a	下木・063 オ 1・疊字	禁	平	キム	左注	kiem ¹	侵韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
5134a	下木・063ウ2・疊字	禁	平	キム	左注	kiem ¹	侵韻
5167a	下木・064オ3・疊字	禁	平	キム	左注	kiem ¹	侵韻
5007a	下木・061ウ1・疊字	禁	去	キン	右注	kiem ¹	侵韻
5010a	下木・061ウ1・疊字	禁	去	キム	—	kiem ¹	侵韻
5011a	下木・061ウ1・疊字	禁	去	キム	右注	kiem ¹	侵韻
5387b	下師・073オ4・人事	風	東	—	—	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
5713b	下師・082ウ7・疊字	風	東	—	—	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
6104a	下飛・092ウ3・人倫	風	東	—	—	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
6494b	下世・106ウ5・地儀	風	東	フウ	右傍	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
0488b	上波・020ウ4・地儀	風	上	フウ	右傍	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
1152b	上保・047オ3・疊字	風	平	フウ	左注	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
1572b	上度・062オ2・疊字	風	平	フウ	中注	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
2419	上加・091オ4・天象	風	平	—	—	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
3620b	下古・010ウ5・疊字	風	平	—	—	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
4441b	下佐・042ウ2・地儀	風	平	フウ	左注	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
5021b	下木・061ウ4・疊字	風	平	—	—	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
6181b	下飛・094ウ7・雑物	風	上	フ	右傍	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
6706b	下世・111ウ5・疊字	風	平	—	—	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
6782b	下洲・113ウ4・地儀	風	平	—	—	riɯɯ ^{1/3}	東/送韻
2217	上遠・080ウ1・植物	楓	平	フウ	右傍	riɯɯ ¹	東韻
2495	上加・093ウ1・植物	楓	平	—	右傍	riɯɯ ¹	東韻
5698a	下師・082ウ3・疊字	詩	東	—	—	siɯɯ ¹	之韻
3409c	下古・006オ1・人事	詩	上濁	シ	左注	siɯɯ ¹	之韻
5716a	下師・083オ1・疊字	詩	平	—	—	siɯɯ ¹	之韻
5717a	下師・083オ1・疊字	詩	平	—	—	siɯɯ ¹	之韻
5718a	下師・083オ1・疊字	詩	平	—	—	siɯɯ ¹	之韻
5719a	下師・083オ1・疊字	詩	平	—	—	siɯɯ ¹	之韻
5428	下師・074オ2・雑物	詩	—	シ [平]	右注	siɯɯ ¹	之韻
5679a	下師・082オ6・疊字	詩	平	—	—	siɯɯ ¹	之韻

番号	前田本所在	掲出字		仮名音注		中古音	韻目
0948	上仁・036ウ6・動物	齡	平	タイ	右傍	śiei ¹ 'iei ¹	之韻
5713a	下師・082ウ7・疊字	思	東	—	—	siei ^{1/3}	之韻
1899b	上池・070オ7・疊字	思	去	シ	左注	siei ^{1/3}	之韻
5839a	下師・084ウ7・疊字	思	去	シ	右注	siei ^{1/3}	之韻
5617a	下師・081オ6・疊字	思	去	シ	左注	siei ^{1/3}	之韻
1026a	上保・041ウ1・天象	司	平	シ	右傍	siei ^{1/3}	之韻
5530a	下師・078ウ5・疊字	司	平	シ	右注	siei ^{1/3}	之韻
5733a	下師・083オ5・疊字	伺	平	シ	右注	siei ^{1/3}	之韻
6354a	下飛・099ウ1・疊字	伺	平	シ	右傍	siei ^{1/3}	之韻
0163	上伊・008ウ3・雑物	絲	平	—	右注	siei ¹	之韻
5432a	下師・074オ3・雑物	絲	—	シ [平]	右注	siei ¹	之韻
5786a	下師・084オ5・疊字	珠	東	シウ	右注	tśiu ¹	虞韻
6106b	下飛・092ウ3・人倫	珠	東	シユ	右傍	tśiu ¹	虞韻
0890b	上波・033ウ5・疊字	珠	平	シユ	左注	tśiu ¹	虞韻
1024b	上保・041ウ1・天象	珠	平	—	—	tśiu ¹	虞韻
2066b	上利・075オ1・疊字	珠	上	シユ	左注	tśiu ¹	虞韻
3304b	下古・001ウ7・地儀	珠	平	ス	右傍	tśiu ¹	虞韻
1465b	上度・056ウ1・人事	朱	平	ス	右傍	tśiu ¹	虞韻
1996b	上利・073オ6・人躰	朱	—	スウ	右注	tśiu ¹	虞韻
2064b	上利・075オ1・疊字	朱	平濁	シユ	中注	tśiu ¹	虞韻
2508b	上加・093ウ4・植物	朱	平	スユ	右傍	tśiu ¹	虞韻
4297	下阿・033オ4・光彩	朱	平	シユ	右傍	tśiu ¹	虞韻
5477a	下師・075オ4・光彩	朱	去	スウ	右傍	tśiu ¹	虞韻
5650a	下師・081ウ6・疊字	朱	平	—	—	tśiu ¹	虞韻
5850a	下師・085オ1・疊字	朱	平	シウ	右注	tśiu ¹	虞韻
5871a	下師・085オ5・疊字	朱	去	シウ	右注	tśiu ¹	虞韻
6910a	下洲・120オ3・疊字	侏	平	スウ	左注	tśiu ¹	虞韻
1904a	上池・070ウ1・疊字	株	平	チウ	左注	tśiu ¹	虞韻

3 上巻に付載する東声の分析

前田本色葉字類抄上巻に見出す東声の諸例は前節【表1】に集約した。それらについて個々に分析を試みる。なお、掲出字の中古音が示す調類は〔 〕で、それに対する日本漢字音の調値は〔 〕で表す。

全六例を数える 0233a・0238a・0239a・0246a・0321a・0324a「幽」では、明らかに東声の位置に差した朱点が存する。これらは上巻伊篇の疊字部に集中（012ウと013ウ）している。単字の例である 1136は平声を差す。

幽天	[東平]	[高低低低]	イウテン	(左注の仮名音注)	0233a
幽奇	[東平]	[高低低低]	イウキ	(右注の仮名音注)	0238a
幽玄	[東平]	[高低低低]	イウクエン	(左注の仮名音注)	0239a
幽谷	[東入]	[高低低低]	イウコク	(左注の仮名音注)	0246a
幽居	[東平]	[高低低低]	イウキヨ	(左注の仮名音注)	0321a
幽閑	[東平]	[高低低低]	イウカン	(中注の仮名音注)	0324a
幽	[平]	[低低]		(仮名音注はなし)	1136

仮名音注「イウ」は、いわゆる漢音形の字音把握と想定する。その漢音において、東声の調値は下降調〔高低〕と推定⁰⁷⁾されている。ただし、漢音の声調については、中古音が示す頭子音(声母)の清濁によって東声と平声が識別される。東声(平声軽)は「清・次清」に、平声(平声重)は「清濁・濁」に対応する。当該字「幽」の中古音 'ieu'¹は等韻学の術語で言う影母清幽韻四等であるから、東声と認定できる。また、漢音資料を代表する長承本蒙求¹²⁾も東声を指している。興味深い傍証として、観智院本類聚名義抄¹¹⁾が示す和音「エウ [平上]」である。いわゆる呉音の字音把握が「エウ」を原則としていることを示すだけでなく、その調値は上昇調〔低高〕である。これは「幽」の呉音が去声であったことを物語る。

盧 [平]	ロ	充 [上]	シウ	幽 [東]	イウ	婚 [平]	コ	(長承本蒙求 / 046)
幽	於虬 [右傍:キウ]	反 …	和音エウ [平上]					(観智院本類聚名義抄 / 僧下 107-1)

0438b「呼」も東声の位置に朱点がある。最終第八画が縦棒の字形であるため、東声は第七画の横棒左端に差す。ちなみに、平声は第八画の左跳ね位置に差す。当該字「呼」の中古音 xua¹は等韻学の術語で言う曉母清模韻一等であり、東声と認定できる。長承本蒙求は平声を差しているように見えるが、その差声位置は東声とも判断できる可能性がある。

噓呼 [平東]	[低低高低]	コ	(中注の仮名音注)	0438b		
王 [平]	陵 [平]	呼 [平]	コ	廟 [去濁]	ヘウ	(長承本蒙求 / 138)

0468b・1758b・4639b・6502b「光」は東声を差す四例であるが、平声を差した4967b・6192二例(去声の例3123bは除外)もある。当該字「光」の中古音 kuan¹³⁾は合口介音を持つため、日本漢字音でも -waū¹³⁾と把握した。観智院本類聚名義抄が示す和音「火ウ」は円唇性介音を表す工夫と言える。同書の反切「古皇 [平] 反」(正音という意識による漢音を示す)には平声点が付されている一方で、長承本蒙求には東声の例がある。よって、当該字「光」を東声と言い切ることにはできないが、特定の熟字に対して東声を保持していた可能性がある。なお、【表1】に集約した同音字「朧・横」は平声と認める。

韶光 [平東] [(低低高低) セウ□□□ (右傍の仮名音注) 0468b¹⁴⁾
 重光樂 [平東□] [(低低高低□□) (仮名音注はなし) 1758b¹⁴⁾
 宣光門 [平東□] [(低低高低□□) (仮名音注はなし) 6502b¹⁴⁾
 三光 [東平] [(高低低低) (仮名音注はなし) 4639b
 九光 [上平] [(高高低低) (仮名音注はなし) 4967b
 光 [平] [(低低) クワウ (右傍の仮名音注) 6192

孔 [上] 光 [東] 温 [東] オ> 樹 [去] シウ (長承本蒙求 / 089)
 田 [平] テ> 横 [平] ワウ 感 [上] カム 歌 [平] カ (長承本蒙求 / 005)
 尙 古皇 [平] 反 光今 … 和火ウ (観智院本類聚名義抄 / 佛下末 036-5)
 勝 音光 勝眺脣 ユリツホ / 尿フクロ (観智院本類聚名義抄 / 佛中 117-2)
 横 音宏 [平] … 和ワウ [右傍: √] (観智院本類聚名義抄 / 佛下本 101-2)

1096「月+肅」も東声を差している。その右注には「ホシイヲ 月+肅」とあり、これは観智院本類聚名義抄が示す当該字の注に一致する。そこには同音字注「周」があり、その「周」を検索すると、同音字注「音州 [東]」を見出す。長承本蒙求も「周」は東声を示している。当該の 1096 は孤例であるが、いわゆる漢音では東声である蓋然性が高い。なお、同音字「洩・菟」は平声と認める。

周 [東] シウ 處 [上] ショ 三 [東] 害 [去] カイ (長承本蒙求 / 007)
 *「周」010・027・048・076・098・108・125・138・142 諸例すべて東声。

月+肅 音周 ホシイヲ (観智院本類聚名義抄 / 佛中 135-4)
 周 音洲 [東] … 和シウ (観智院本類聚名義抄 / 僧下 105-7)
 洩 音搜 所留反 小便也 … 洩 俗通 … 疎有反 … (観智院本類聚名義抄 / 法上 030-5)
 菟 音搜 鬼目草 … (観智院本類聚名義抄 / 僧上 050-1)

1121「炎」は東声の位置に声点を差している。しかし、当該字「炎」の中古音 *yiam*¹ は等韻学の術語で言う匣母清濁鹽韻三等であるから、平声とすべきである。観智院本類聚名義抄も平声を示す。なぜ前田本が東声を差したか不明。

炎 烏胡反 アツシ / ホノホ カケロフ (観智院本類聚名義抄 / 佛下末 050-5)
 *反切「烏胡反」は「烏胡反」の誤認。

全五例を数える 1909a・1910a・1911a・1912a・1941a「珍」は東声を差す。観智院本類聚名義抄の同音字注（正音を標榜すると認める）は「音鎮」とする。この後に「和去」を掲げるから、いわゆる呉音声調を去声と把握している。しかし、当該字「珍」の声調が東声・平声いずれか判然としない。単字「珍」の例がないので、確定はできないが、前田本の当該字「珍」は東声である可能性が高い。なお、前田本では同音字「鎮」四例（1768a・1812a・1813a・1815a）に対して平声を差している。長承本蒙求も「鎮」は平声を差す。

珍美 [東平濁] [(高低低低) チンヒ (左注の仮名音注) 1909a
 珍膳 [東平] [(高低低低) チンセン (左注の仮名音注) 1910a
 珍菓 [東平] [(高低低) チンクワ (左注の仮名音注) 1911a
 珍物 [東入濁] [(高低低低) チンフツ (左注の仮名音注) 1912a
 珍事 [東平] [(高低低) チンシ (右注の仮名音注) 1941a

周 [平] シウ 鎮 [平] チ> 漏 ロウ 船 セ>

(長承本蒙求 / 125)

珎 音鎮 … 和去 珍 正 …

(観智院本類聚名義抄 / 法中 019-1)

2641「嘈」には東声を差す。当該字右側の諧声符「曹」の下部「日」左上部角に差声している。当該字の中古音 $dzau^1$ は等韻学の術語で言う従母濁豪韻一等であるから、平声のはずである。前田本が東声を示す理由は不明。部首「口」を上部に書写したため、その下部に空間ができ、適切な差声位置に苦慮した結果かもしれない。同音字 4568「槽」は、その部首「木」の第二画縦棒下部に平声を差す。

嘈 [東] [高低] サウ (右傍の仮名音注) 2641

槽 [平] [低低] サウ (右傍の仮名音注) 4568

全六例を数える 3009a・3012a・3014a・3029a・3041a・3085a「高」には東声を差す。同音の単字例 4353「膏」にも東声を差す。その一方で、平声の「高」と「膏」各三例がある。すべて東声を差す長承本蒙求の諸例も参照に加えれば、当該字「高」は東声と認める。興味深い傍証として、観智院本類聚名義抄が示す和音「カウ [□上]」である。いわゆる呉音の調値は上昇調〔低高〕と推測できる。これは「高」の呉音が去声であったことを示している。ただし、「膏」の場合は平声の単字例 4187があり、東声と認めるには躊躇がある。また、上下に諧声符「高」部首「月(にくづき)」という字形であるため、縦長に書写されることが多い。平声例 4553b は部首「月」の第四画横棒左端付近に差声しており、東声と判断もできる可能性がある。

高才 [東平] [高低低低] カウサイ (左注の仮名音注) 3009a

高誨 [東去] [高低低高] カウクワイ (左注の仮名音注) 3012a

高教 [東平] [高低低低] カウカウ (左注の仮名音注) 3014a

高匡 [東平] [高低低低] カウクキヤウ (左注の仮名音注) 3029a

高湖 [東平] [高低低] カウコ (左注の仮名音注) 3041a

高覽 [東上] [高低高高] カウラム (右注の仮名音注) 3085a

膏 [東] [高低] (仮名音注はなし) 4353

于 [平] ウ 公 [平] コウ 高 [東] 門 [平] モム

(長承本蒙求 / 022)

*「高」036・110・115 諸例すべて東声。

高高 今正 音羔 … 和カウ [□上]

(観智院本類聚名義抄 / 法下 043-2)

膏高+肉 今正 / 音高

(観智院本類聚名義抄 / 佛中下 136-8)

* 掲出字「膏・高+肉」は縦長に書写している。

3117a「函」には東声を差しているが、当該字の中古音 $\gamma\lambda m^1$ は匣母濁覃韻一等であるから、平声のはずである。3117aが東声を示す理由は不明。あるいは誤認か。単字例 0673「函」には平声を差す。同音字 2463a・2887a「含」2464a「答」も平声を示す。

函谷 [東入] [高低低低] カムコク (右注の仮名音注) 3117a

函 [平] [低低] カム (右注の仮名音注) 0673

3137a「蕭」には東声を差すが、他の四例 0491・3188・6720a・6739a は平声を付す。当該例の左注には「又下字索 [入 / 右傍: サク]」とあり、「蕭索 [東入]」も想定できる。しかし、6739a「蕭索 [平入]」も存在しており、前田本では声調に揺れがある。長承本蒙求の四例が示す東声を傍証として、東声の可能性を指摘しておく。

蕭條 [東□] [高低□□] セウ□□ (右傍の仮名音注) 3137a

蕭 [東] セウ 芝 [東] シ 雉 [去] チ 隨 [平] スイ

(長承本蒙求 / 009)

*「蕭」016・073・134を含む四例すべて東声。

単字である3187「蒿」には東声を差す。当該字の中古音 *xau*¹ は曉母清豪韻一等であるから、東声を期待する。長承本蒙求の二例も東声を差している。よって、当該の3187は東声と認めたいが、孤例であるため断定はできない。

蒿 [東] [高低] カウ (右傍の仮名音注) 3138

孫 [平] ソ> 晨 [平] シ> 蒿 [東] カウ 席 [入] セキ

(長承本蒙求 / 101)

仲 [去] チウ 尉 [去] キ 蓬 [平] ホウ 蒿 [東] カウ

(長承本蒙求 / 109)

前田本色葉字類抄上巻の状況を集約すれば、「幽・呼・光・月+肅・珍・高・蕭・蒿」を東声と認定できる。あるいは東声である蓋然性が高いと言える。

4 下巻に付載する東声の分析

前田本色葉字類抄下巻に見出す東声の諸例は前々節【表2】に集約した。それらについて個々に分析を試みる。

3321a「茭」は東声を差した例である。当該例は熟字「茭草 [東□]」として掲出され、右傍に「カウ」という仮名音注を付す。その下字「草」には声点を差していないので、日本漢字音における調値は〔高低□□〕と考えておく。同音字「交」は四例あるが、いずれも平声を差している。長承本蒙求では「交」三例すべて東声である。観智院本類聚名義抄が示す和音「ケウ [□上]」は去声を示している。同音字で注目すべきは、2433「郊」に付された仮名音注「カウ [上平]」である。明らかに下降調〔高低〕を示すゆえ、同字は東声と推定できる。このように同音字それぞれが東声と平声を差しており、当該字「茭」は東声である可能性を残しつつも、判断がつかない。

交 [東] カウ 甫 [上] ホ 解 [上] カイ 佩 [去] ハイ

(長承本蒙求 / 043)

郭 [徳] 火ク 解 [上] カイ 借 [徳] セキ 交 [東] カウ

(長承本蒙求 / 084)

劉 [平] リウ 整 [上] セイ 交 [東] カウ 質 [入] シチ

(長承本蒙求 / 135)

交 音膠 マシハル [右傍:リ] …

(観智院本類聚名義抄 / 法下043-1)

交 マシハル [平平上平] … 和ケウ [□上]

(観智院本類聚名義抄 / 僧中053-8)

3400「辭」には東声と平声を差し、両声調の揺れを認める。3401「辭」は東声を見出す。同音の異体字5489「辭」にはサ変動詞を示す仮名音注「シス [平濁□]」を付しており、平声と考える。長承本蒙求では「辭・辭」に平声を差した諸例がある。観智院本類聚名義抄では「辭」の反切に平声を見出すが、一方「辭」の同音字注「詞」に東声を見つける。やはり揺れが認められる。よって、当該字「辭」は両声調を有するとしておく。

去 [去] キヨ 病 [去] ヘイ 辭 [平] シ 第 [去] テイ

(長承本蒙求 / 097)

*「辭」040・102・137諸例すべて平声。

於 [平軽] ヨ 陵 [平] リョウ 辭 [平] シ 聘 [去] ヘイ

(長承本蒙求 / 080)

班 [東] ハ> 伴反 女 [上] 辭 [去] シ 輦 レ>

(長承本蒙求 / 064)

辞 亦辞辭辭 似茲 [平] 反 …

(観智院本類聚名義抄／佛中 025-8)

辭 音詞 [東] イナフ [平平上濁] … 辭 辭

(観智院本類聚名義抄／僧下 066-7)

3632b・4695b「生」には東声を差す。一方で、1046b・4100a・5863b「生」では平声を見出す。長承本蒙求の「生」五例は東声を付し、仮名音注「セイ」(054以外の四例)も加える。さらに、同音字 5410・5411「笙」にも東声を差す。よって、前田本の当該字「生」は東声である蓋然性が高い。なお、仮名音注「シャウ」を付載する 3003b・5810aには上声・去声を差しており、いわゆる呉音を想定した諸例と認める。観智院本類聚名義抄に見出す和音「者ウ [平上]」は去声調値の上昇調を示し傍証となる。

後生 [去東] [低高高低] (仮名音注はなし) 3632b

* 仮名音注は「コウセイ」と想定される。

再生 [去東] [低高高低] (仮名音注はなし) 4695b

寄生 [去平] [低低低低] (仮名音注はなし) 1046b

生菜 [平去] [低低低高] セイサイ (右傍の仮名音注) 4100a

常生 [平平] [低低低低] シャウセイ (右傍の仮名音注) 5863b

學生 [平上] [低低高高] カクシャウ (左注の仮名音注) 3003b

生涯 [去平] [低低低低] シャウカイ (右注の仮名音注) 5810a

笙 [東] [高低] セイ (右傍の仮名音注) 5410

笙 [東] [高低] シャウ (右注の仮名音注) 5411

* 同じ掲出字「笙」に仮名音注「セイ」5410「シャウノフェ」5411両方がある。

杜 [上・去: 圈点] ト 后 [上・去: 圈点] コウ 生 [東] セイ 齒 [上] シ (長承本蒙求／ 010)

* 「生」023・054・065・083を含め五例すべて東声。

生 所争反 … 和者ウ [平上] [ウの右傍: √]

(観智院本類聚名義抄／僧下 091-3)

笙 音生 シャウノフェ

(観智院本類聚名義抄／僧下 071-1)

3667b「心」は東声を差す孤例であり、他23例を数える「心」は平声(12例) 上声(05例) 去声(06例)のいずれかを差す。上声・去声を示す13例は呉音を標榜するとしても、12例は明らかに平声の例で、いわゆる漢音と考えられる。また、単字の例3378「心」も平声を差している。さらに、同音字「浸」5354aは同音字注「心 [平]」を付載する。前述したように、漢音の声調においては、中古音が示す頭子音の清濁によって東声と平声が識別される。東声(平声軽)は「清・次清」に、平声(平声重)は「清濁・濁」に対応する。当該字「心」の中古音 *siem*¹ は等韻学の術語で言う心母清侵韻四等であるから、東声を期待できる。長承本蒙求の三例は東声を差し、観智院本類聚名義抄の同音字注「音深」にも東声を見出す。よって、特定の例(3667b)以外、前田本においては当該字「心」を平声と捉えていたと考える。

黒心 [入東] [低低高低] (仮名音注はなし) 3667b

* 「心」に差した東声点は第一画の上部位置にある。

芳心 [平平濁] [低低低低] ハウシム (中注の仮名音注) 0799b

隔心 [入平] [低低低低] カクシム (左注の仮名音注) 2936b

甘心 [入平濁] [低低低低] カムシム (中注の仮名音注) 2941b

骸心 [平濁入] [低低低低] カクシム (左注の仮名音注) 2953b

感心 [上平] [高高低低] カムシム (左注の仮名音注) 2964b

逆心 [入平] [低低低低] 5104b

心河鳥 [平平濁上] 〔低低低高高〕	5381a
心神 [平平] 〔低低低低〕	5619a
* 「心」に差した平声点は第一画止めの位置ではなく、そのやや上に位置し東声にも見える。	
心操 [平去濁] 〔低低低高〕 シムサウ (左注の仮名音注)	5621a
心肝 [平平] 〔低低低低〕	5653a
心事 [平平] 〔低低低〕	5654a
心 [平] 〔低低〕 息林反 (右注の反切)	3378

西 [東] 施 [東] シ 棒 [上] ホウ・フ 心 [東] シム	(長承本蒙求 / 038)
弘 [平] コウ 羊 [平] ヤウ 心 [東] 計 [去] ケイ	(長承本蒙求 / 097)
郭 [徳] 火ク 帘 [徳] エキ 心 [東] シム 酔 [去] スイ	(長承本蒙求 / 114)
心 音深 [東] コ、ロ (平平上) …	(観智院本類聚名義抄 / 法中 068-7)

3671b・4752a「山」には東声を差す。他の19例には平声を差している。その中古音 *ʃen*¹ は生母清山韻二等であり、いわゆる漢音の声調では東声を期待する。長承本蒙求の六例は東声を差す。観智院本類聚名義抄の当該字「山」には和音「セン [平上]」があり、いわゆる呉音では上昇調である去声を示すと認める。正音を示す反切「所姦反」は東声である証左にならない。また、前田本に見出す同音字「疝」には平声を差す。観智院本類聚名義抄の当該字は同音字注「音山」と付載しており、やはり東声かどうか判断できない。よって、特定の諸例 (3671b・4752a) 以外は平声と把握していたことになる。

黒山 [入東] 〔低低高低〕 (仮名音注はなし)	3671a
山郵 [東平] 〔高低低低〕 サンイウ (右傍の仮名音注)	4752a
叔 [徳] シク 夜 [去] ヤ 玉 [徳] 山 [東] サヅ	(長承本蒙求 / 014)
山 [東] サ> 濤 [平] タウ 識 [徳] ショク 量 [去] リヤウ	(長承本蒙求 / 021)
周 [東] 侯 [平] コウ 山 [東] 嶷 [徳: 加濁 / 長承三年墨点] 玉反	(長承本蒙求 / 027)
郭 [東] 文 [上] フ> 遊 [平] 山 [東] サヅ	(長承本蒙求 / 028)
山 [東] 蘭 [上] カ> 倒 [上] 載 [去] タイ タイ	(長承本蒙求 / 043)
鄧 [去] トウ リウトウ 通 [東] トウ 銅 [平] トウ 山 [東]	(長承本蒙求 / 059)
山 所姦反 ヤマ (平平) … 和セン (平上)	(観智院本類聚名義抄 / 法上 106-7)
疝 音山 疝癩腸病 / アタハラ	(観智院本類聚名義抄 / 法下 115-6)

3788「簡」は東声を差した単独例である。1934b・5708bには平声の二例がある。その中古音 *ken*² は見母清産韻二等であるから、上声と考えられる。まさに、1638b・2906a・3025a・3097aの四例は上声を差す。いわゆる漢音を代表する長承本蒙求の諸例も上声を示す。観智院本類聚名義抄も正音を示す反切「居限反」は上声である。よって、東声を差す当該字は孤例でもあり、他の例が平声・上声であることを考慮すると、疑義が残る。

簡 [東] 〔高低〕 (仮名音注はなし)	3788
竹簡 [入平] 〔低低低低〕 チクカン (右注の仮名音注)	1934b
竹簡 [入平] 〔低低低低〕 チクカン (右傍の仮名音注)	5708b
阮 [上] クエ> 簡 [上] カ> 曠 [去] 火ウ 達 [入]	(長承本蒙求 / 067)
田 [平] テ> 方 [東] ハウ 簡 [上] カ> 傲 [平・去] カウ	(長承本蒙求 / 105)

東 [入] ソク 哲 [徳] テツ・セキ 竹 [徳] チク 簡 [上] カ> (長承本蒙求 / 144)

* 第二字「哲」は「哲」とも認定できる。

簡 居限反 フタ (上上濁) (右傍: ミ・ム) … (観智院本類聚名義抄 / 僧上 078-4)

3883「亭」は単字で東声を差す。その中古音 den¹ は定母濁青韻四等であるから、等韻学上の「濁」は平声になる。しかも、当該字には仮名音注「テイ [平平]」を付載するので、その調値は低平調であり、平声を示している。その差声位置を確認すると、第九画の横棒左端に差している。他の 3939a・4016a「亭」二例では最終十画の縦棒下に差す。観智院本類聚名義抄においても同音字注「音停 [平]」があり、平声を示している。よって、当該字「亭」の東声は誤認の可能性が高い。

亭亭 音停 [平] タカシ [平平上] … (観智院本類聚名義抄 / 法下 041-4)

3921a・4571には東声を差す。3921a「刁斗」では仮名音注「テウトウ [上平上上]」を左注に付す。仮名音注の調値〔高低〕が下降調を示す点から見ても、明らかに東声と認定できる。観智院本類聚名義抄には同音字注「瑠」を見出すが、東声の傍証にはならない。

刁斗 [東上] [高低高高] テウトウ [上平上上] (左注の仮名音注) 3921a

刁 [東] [高低] テウ (右傍の仮名音注) 4571

刀 都高反 丘器也 小船也 カタチ / 又瑠音 刁也 … 和タウ [平上] (観智院本類聚名義抄 / 僧上 085-6)

3999a「鳥」には東声・上声ばかりか徳声までを差している。上声以外の差声には疑義があり、熟字「鳥跡 [上入]」であったと思われる。0441b・1663b・3904a・5231b・5381cの「鳥」五例は上声を差す。当該字の中古音 teu² は端母清篠韻四等であり、明らかに上声である。長承本蒙求の例も上声を差している。さらに、観智院本類聚名義抄でも当該「鳥」の同音字注「了 [*上下逆位置の字形]」に上声点を付す。よって、3999a「鳥」に差した東声は誤認と認める。

羅 [平] 含 [平] カム 呑 [東: 加濁 / 長承三年墨点] ト> 鳥 [上] テウ (長承本蒙求 / 036)

鳥 … 音了 [*上下逆位置の字形] [上] [右傍朱: テウ] … 和去 (観智院本類聚名義抄 / 僧中 110-7)

了 [*上下逆位置の字形] 音鳥 [上] … (観智院本類聚名義抄 / 法下 140-5)

4050「嵐」には東声を差しているが、その中古音 lam¹ は来母清濁覃韻一等であるから、いわゆる漢音の声調では平声と認められる。当該字「嵐」について、観智院本類聚名義抄が示す同音字注「音婪」も平声である。よって、4050「嵐」に差した東声は誤認と認める。

嵐 音婪 アラシ [平平平] (観智院本類聚名義抄 / 法上 122-2)

嵐 音婪 [右傍: ラム] アラシ 又呼監反 (観智院本類聚名義抄 / 僧下 054-8)

4391a「支」には東声を差し、熟字「支離 [東平]」として掲出され、その右傍には「シリ」を付す。東声の例は他になく、当該の「支」を含む諸例では 3787・5628a・5642a・5747a に平声を差す。当該字「支」の中古音 tsie¹ は等韻学の術語で言う章母清支韻三等であるから、東声を期待する。注目すべきは、観智院本類聚名義抄に掲出する同音字注「枝 [東]」であり、東声を差している。長承本蒙求は「枝」に対して東声を示す。よって、孤例である点を考慮しつつも、当該字「支」は東声の可能性があると考えたい。ただし、特定の熟字においては平声例も併存する。日本漢字音において1音節語の声調把握が困難な場合があるとも考え得る。

支籬 [東平] [高低低低=●○○] シリ (右傍の仮名音注) 4391a
 支 [平] [低] (仮名音注はなし) 3787
 支配 [平□] [低□□] (右注の仮名音注) 5628a
 支急 [平入] [低低低] (仮名音注はなし) 5642a
 支度 [平入] [低低低] (左注の仮名音注) 5747a

鄰 [入] ケキ ケキ 訛 [平] シ> 一 [入] 枝 [東] シ (長承本蒙求 / 012)
 支 音枝 [東] サ、フ [平平□] … (観智院本類聚名義抄 / 僧中 052-3)
 支 … 章移反 エタ ヒトシ ハルカ … (観智院本類聚名義抄 / 僧中 062-4)

4392a・5851a「周」には東声を差し、熟字「周章 [東平]」「周白 [東徳]」として掲出され、その右傍には仮名音注「シウシヤウ」「シウハク」を付す。当該字「周」の中古音 *tʃiu*¹ は等韻学の術語で言う章母清尤韻三等であるから、東声を期待する。応えるように、長承本蒙求に見出す全十例は東声を示す。観智院本類聚名義抄を参照すると、正音の同音字注「音州 [東]」があり、東声を差している。いわゆる漢音では東声の把握をしていたことになる。また、和音「シウ [□上]」も見出すから、いわゆる呉音では去声と捉えていたのであろう。よって、当該字「周」は東声と認定できる。前田本が示す平声の五例は個別の声調把握を表したもののか、判然としない。ただし、当該字「周」の第一画は縦棒左払いの字形で、やや短めに書写される傾向がある。そのため、東声か平声か判断に苦しむ場合 (5784a は東声にも見える) があることを付言しておく。

周章 [東平] [高低低低] シウシヤウ (右傍の仮名音注) 4392a
 周白 [東徳] [高低高高] シウハク (右傍の仮名音注) 4392a
 周 [平] [低低] シウ (右傍の仮名音注) 1128
 周白 [平□] [低低□□] シウハク (右傍の仮名音注) 1464a
 周章 [平平] [低低低低] シウシヤウ (右傍の仮名音注) 5784a
 周ト [平入濁] [低低平平] シウホク (右傍の仮名音注) 5845a

周 [東] シウ 處 [上] ショ 三 [東] 害 [去] カイ (長承本蒙求 / 007)

* 東声を差す「周」は全体で十例を数える。

周 音州 [東] … 和シウ [□上: 墨点] (観智院本類聚名義抄 / 僧下 105-7)

4492a・4639a・4781a「三」には東声を差す。一方で、4540a・4587a・4588a・4668aの「三」には平声を差している。長承本蒙求は全九例ともに東声である。観智院本類聚名義抄では正音を示す反切「思甘 [□平] 反」があり、平声と認める。よって、当該字「三」は東声である可能性が高いが、特定の熟字においては平声を示す場合があると言える。

三封 [東平] [高低低低] サムツ (右注の仮名音注) 4492a

* 掲出下字「封」の右傍には「ホウ」あり。

三光 [東平] [高低低低] (仮名音注はなし) 4639a
 三友 [東平] [高低低低] サムイウ (右注の仮名音注) 4781a
 三臺塩 [平平濁□] [低低低低□□] (仮名音注はなし) 4540a
 三鈷 [平上濁] [低低高] サムコ俗 (右注の仮名音注) 4587a
 三衣匣 [低低高] サムエハコ (右注の仮名音注) 4588a

三礼 [平平] (低低低低) サムレイ (左注の仮名音注) 4668a

周 [東] シウ 處 [上] ショ 三 [東] 害 [去] カイ (長承本蒙求 / 007)

阮 [上] クエ> 瞻 [上] セム 三 [東] サム 語 [上:加濁/長承三年墨点] キョ (長承本蒙求 / 028)

* 東声を差す「三」は全体で九例を数える。

三 思甘 [□平] 反 ミトコロ / 又去 和 玄三 (観智院本類聚名義抄 / 佛上 074-2)

三 鈷 サムコ [平平上濁] (観智院本類聚名義抄 / 僧上 115-7)

5188b「園」に付載された東声は誤認と考える。差声位置が左に離れており、声点と認定できるか疑義が残る。加えて、当該字「園」の中古音 *yuan*¹ は等韻学の術語で言う匣母清濁山韻三等であるから、平声を想定する。観智院本類聚名義抄には同音字「猿」の仮名音注「エム [平平]」を見出す。平声であることの傍証になる。長承本蒙求も「猿」には平声を差し、同音字注「園反」を付載する。

眷 [上] 由 [平] イウ 號 [平] カク カウ 猿 [平] 園反 エ> (長承本蒙求 / 045)

園圃 音上猿下浦 / ソノ [平上] (観智院本類聚名義抄 / 法下 086-4)

猿猴 音園 サル [平上] / 下 エムコ [平平平] … 猿 俗 … (観智院本類聚名義抄 / 佛下本 127-8)

5213b「昏」には東声を差す。ただし、当該例は二字分相当と言えるほど縦に長く書写されているため、東声と断定できるか躊躇する。それに比べて、5533b「昏」は東声の位置に差し、熟字「晨昏 [平東濁]」として掲出する。東声で濁点を示すのは日本語音韻史上の連濁を起しているためであろう。当該字「昏」の中古音 *xuan*¹ は曉母清濁韻一等であるから、東声を期待できる。長承本蒙求には当該字がなく、同音字「婚」に東声を差す。よって、前田本の当該字「昏」は東声の蓋然性が高い。なお、観智院本類聚名義抄は同音字注「音昏 [平]」を掲出し平声である。

黄昏 [平東] (低低高低) クワウコン (右傍の仮名音注) 5213b

晨昏 [平東濁] (低低高低) シンコン (左注の仮名音注) 5533b

盧 [平] ロ 充 [東] シウ 幽 [東] イウ 婚 [東] コ> (長承本蒙求 / 046)

昏 ユフヘ [上上平濁] … 音昏 [平] … 昏 (観智院本類聚名義抄 / 佛中 101-2)

5382b「金」には東声かと思える位置に声点があるが、平声とも見える。類似した例の0154b「金」には平声を差す。これを含め九例が平声、去声が十二例を示す。長承本蒙求では全六例すべて東声を差し、平声の例はない。観智院本類聚名義抄は当該字「金」に同音字注「音今」を付載し、平声と去声も差す。さらには、その右傍に「キム」左傍に「コム」まで加えている。反切と同じく、同音字注は正音として付注したものであるから、いわゆる漢音に「キム・コム」両音形を認めていることになる。よって、前田本に掲げる「金」二十一例は平声および去声と認めたい。

澁金樂 [入東□] (低低高低□□) シフキムラク (左注の仮名音注) 5382b

溢金樂 [□平□] (□□低低□□) イツキムラク (右注の仮名音注) 0154b

陳 [平] チ> 重 [上] 送 [去] ソ于 ソウ 金 [東] キム (長承本蒙求 / 061)

* 東声を差す「金」は全体で六例を数える。

金 音今 [平・去] [右傍:キム/左傍:コム] カネ [上上] … (観智院本類聚名義抄 / 僧上 113-6)

5387b・5713b・6104a・6494b「風」には東声を差す。平声を差す「風」は八例、上声を差すそれは二例ある。長承本蒙求の二例は東声を差している。観智院本類聚名義抄の当該字には和音「フウ [□

上]」を見出すから、いわゆる呉音は上昇調の去声と想定できる。しかし、いわゆる漢音が平声か東声か、同付載の「万隆反」ではわからない。よって、前田本において当該字「風」は東声と平声が併存していたと認める。

秋風樂 [□東□] [□□高低□□] (仮名音注はなし) 5387b
 思風 [東東] [高低 高低=●●○] (仮名音注はなし) 5713b
 風姿 [東平] [高低低] (仮名音注はなし) 6104a
 宣風房 [平東□] [低低高低□□] センフウ (右傍の仮名音注) 6494b

庶 [去] ヲ 女 [上] 振 [去] シ 風 [東] (長承本蒙求 / 022)

南 [平] ナム 風 [東] 擲 [德] テキ 孕 [去] ヨウ (長承本蒙求 / 099)

* 第019行「風」は欠損のため声点不明。

風 万 [平] 隆反 カセ [上上] … 和フウ [墨点: 上 / 右傍: √] (観智院本類聚名義抄 / 僧下 051-1)

5698a「詩」には東声を差す。1音節内で下降調を示すことになる。当該例は熟字「詩人」として掲出される。他六例は平声を差す。単字例5428「詩」には仮名音注「シ [平]」を付載するから、明らかに平声である。長承本蒙求が示す二例は東声である。観智院本類聚名義抄の当該字には正音である反切「舒之 [東] 反」が付載されている。反切下字に差した声点は東声の位置と思われるが、平声の可能性もあり、断定できない。よって、前田本において当該字「詩」は平声としておく。ただし、特定の熟字においては東声を示す場合があると言える。

詩人 [東平濁] [高低 低低=●○○] (仮名音注はなし) 5698a

詩 [低] シ [平] (右注の仮名音注) 5428

李 [上] リ 陵 [平] リョウ 初 [上] ソ 詩 [東] (長承本蒙求 / 005)

姜 [東] キヤウ 詩 [東] シ 躍 [入] ヤク 鯉 [上] リ (長承本蒙求 / 136)

詩 舒之 [東] 反 ウタフ … (観智院本類聚名義抄 / 法上 061-7)

5713a「思」には東声を差し、1音節内で下降調を示すことになる。熟字「思風」として掲出される。他三例は去声を差す。その中古音 *siei*¹ は等韻学の術語で言う心母清之韻四等であるから、東声を期待できる。長承本蒙求の四例は東声を示す。観智院本類聚名義抄を参照すると、和音「シ [去]」があり、いわゆる呉音では去声であることが判明する。加えて、その割注には「又去」もあり、いわゆる漢音においても去声で把握できたことがわかる。前田本の去声三例 (1899b・5839a・5617a) が該当しよう。よって、当該字「思」は東声である可能性が高いと認める。

思風 [東東] [高低 高低=●●○] (仮名音注はなし) 5713a

左 [上] サ 思 [東] シ 十 [入] ソ 稔 [上] シム (長承本蒙求 / 112)

* 東声を差す「思」は全体で四例 (112・117・141・145) を数える。

思 音筒 オモフ … 又去 … 和シ [墨点: 去] (観智院本類聚名義抄 / 法中 071-3)

5786a・6106b「珠」には東声を差し、熟字「珠履・緑珠」として掲出する。他の0890b・1024b・3304b三例は平声を差す。長承本蒙求には東声四例を見出すが、前田本の掲出例と一致する「珠履 [東上]・緑珠 [徳東]」がある。観智院本類聚名義抄には同音字注「音朱 [去]」を見出す。よって、前田本の当該字「珠」の場合、東声と平声が併存していると考えたい。

珠履 [東平] [高低低低]	シウリ	(右注の仮名音注) 5786a
緑珠 [入東] [低低 高低]	リヨクシュ	(右傍の仮名音注) 6106b
緑珠 [入上] [低低高]	リヨクシュ	(右傍の仮名音注) 2066b
白珠 [入平] [低低低低]	ハクシュ	(右注の仮名音注) 0890b
貫珠 [去平] [低高低低]		(仮名音注はなし) 1024b
比珠 [去平] [低高 低]	□ス	(右傍の仮名音注) 3304b

春 [東] 申 [平] シ> 珠 [東] シウ 履 [上] リ	(長承本蒙求 / 087)
緑 [徳] リヨク 珠 [東] ス 墜 [去] ツイ 樓 [平] ロウ	(長承本蒙求 / 070)
測 [東] エ> 客 [徳] カク 泣 [徳] キウ 珠 [東] ス シュ	(長承本蒙求 / 043)
鍾 [東] ショウ 離 [平] リ 委 [上] キ 珠 [東] ス	(長承本蒙求 / 102)
珠 音朱 [墨点: 去] タマ [平平] / シラタマ	(観智院本類聚名義抄 / 法中 024-5)

前田本色葉字類抄下巻の状況を集約すれば、「生・刁・支・周・三・昏・思」各諸例を東声と認定できる。ただし、特定の熟字において東声を保持している場合（「山・辭・心・風・詩・珠」）があることも付言する。

9 まとめ

字書として編纂された色葉字類抄が持つ文献の特徴から見て、その掲出字は規範的な声調を示すという差声の方針があったはずである。この点については、すでに指摘¹⁵⁾がある。つまり、規範的な単字の声調を示すことを目的としていた可能性がある。一方で、疊字門の下位区分である仏法部は呉音をもって、仮名音注や声点を付したという分析¹⁶⁾もある。ただし、東声を差した当該の諸例については、この区分に該当するものがない。

これらを踏まえて、前田本に見出す東声の分析を試みた。基本的には、いわゆる漢音の声調を示しているが、果たして六声体系に基づくものかどうかは判然としない。規範的な声調表示を基本としながらも、東声を含む熟字それぞれが常用的な音読に基づいて差声された可能性が残されているからである。前田本上下巻で認定した東声例について、個々の熟字に関わる出典や用例を分析しなければならないが、今回は規定された紙幅の都合で割愛した。次稿に期したい。

[注]

- 00) 前稿「前田本色葉字類抄の徳声について」(山梨県立大学国際研究 14 号、2018 年)においては徳声の分析を試みた。本稿では東声の分析を行う。記述の性格上、重複した部分があることを付言しておく。
- 01) 次の複製を参照した。
『尊経閣蔵三巻本色葉字類抄』(勉誠社、1984 年)
- 02) 節用文字などをも含む世俗字類抄や色葉字類抄などの諸本を総称して字類抄諸本とする。単に字類抄と称する文献はない。平安時代末期において常用する基本的な語彙としての和名を蒐集し、対応する漢字見出しのもとに掲出字を選択していく、という編纂の原則を持って成立した。いわゆる「色葉和名」とも言える体裁である。この「色葉和名」は原撰本系諸本と想定できる初期段階の書名にもなっていたらしい。現存する字類抄諸本を示しておく。

【原形本】

[イ] 川瀬一馬蔵本

▶ 鎌倉時代初期の書写になると推定する零本。原形本と認定できるかは不明。

【節用文字】

[ロ] 石川武美記念図書館蔵本(成篋堂文庫旧蔵)

▶ 二巻本色葉字類抄を平安時代末期か鎌倉時代初期に書写したともいわれる零本。

【二卷本世俗字類抄】

[ハ] 天理図書館蔵本(松平定信旧蔵)

▶江戸時代中期以降の書写か。

[ニ] 黒川家蔵本

▶元治元年晩夏中旬に黒川春村が書写。

[ホ] 川瀬一馬蔵本

▶黒川家蔵本[ニ]の手写本。

[ヘ] 東京大学文学部国語研究室蔵本

▶奥書のない黒川家旧蔵本であり、黒川家蔵本[ニ]とは別の一本。

【三卷本世俗字類抄】

[ト] 水戸彰考館本

▶永正十二年の書写本。戦災で消失したという。これは、[ヘ] 東京大学文学部国語研究室蔵二卷本の表裏に附箋があり、「文学博士橋本進吉云世俗字類抄三卷水戸彰考館ニアリ永正ノ寫本ニシテ順識トアリ」による。

【七卷本世俗字類抄】

[チ] 尊経閣文庫蔵本

▶卷三を欠く六冊本。

【二卷本色葉字類抄】

[リ] 尊経閣文庫蔵本

▶正和四年と応永三十年との二度に渡る伝写を経て、永禄八年に書写。

【三卷本色葉字類抄】

[ヌ] 尊経閣文庫蔵本

▶院政期末あるいは鎌倉初期の書写ともいうが、確かではない。中巻と下巻の一部を欠く。

[ル] 黒川家蔵本

▶江戸中期の書写か。

03) 沼本克明『平安鎌倉時代に於ける日本漢字音に就ての研究』(武蔵野書院、1982年) 493頁08-09行

04) 沼本克明『平安鎌倉時代に於ける日本漢字音に就ての研究』(武蔵野書院、1982年) 497頁09-15行

05) 小倉肇『続・日本呉音の研究』(和泉書院、2014年) 研究編第1部562頁21-26行

06) 沼本克明『日本漢字音の歴史』(東京堂出版、1986年) 52頁01行から52頁15行を集約した。

07) 小倉肇『続・日本呉音の研究』(和泉書院、2014年) 研究編第1部533頁24-25行

08) 小倉肇『続・日本呉音の研究』(和泉書院、2014年) 研究編第1部548頁27-28行

09) 情報機器における日本語表示の規格としては、2004JIS (JIS X 0213: 2004) が策定され11,223文字が規定されているが、これで表示できない漢字は当然存在する。いわゆるJIS外漢字表示方法については、以下の論文に准拠した。部首や諧声符など、漢字の字形パーツを+記号を使って組み合わせる方法である。当該の漢字には下線を施してある。例えば、「疒+呆」「疒+耒」のように表示する。ただし、情報処理推進機構 (IPA: Information-technology Promotion Agency, Japan) が作成した「IPAmj明朝フォント」(Ver.006.01: 2019年05月) を使うことで、約六万文字の表示や印刷が可能となる。

・二戸麻砂彦「パソコンにおける漢字処理/試論」(山梨県立女子短期大学紀要28、pp.09-18、1995年)

・文字情報基盤整備事業 (<https://mojikiban.ipa.go.jp/1300.html> 独立行政法人情報処理推進機構、2019年)

10) 中古音については三根谷説の推定音によった。

・三根谷徹「中古音の韻母の体系—切韻の性格—」(言語研究、31号、1956年)

・三根谷徹『越南漢字音の研究』(東洋文庫、1972年)

・三根谷徹「唐代の標準音について」(東洋学報、57巻1・2号、1976年)

・三根谷徹『中古漢語と越南漢字音の研究』(汲古書院、1992年/1972年の再録を含む)

11) 次の複製と文献を参照した。

・正宗敦夫編『類聚名義抄第一・二巻』(風間書房、1975年)

・天理図書館善本叢書『類聚名義抄観智院本』和書之部32-34(八木書店、1977年)

・新天理図書館善本叢書『類聚名義抄観智院本』09-11(八木書店、2018年)

・宮内庁書陵部蔵『図書寮本類聚名義抄』本文編・解説索引編(勉誠社、1976年)

・沼本克明『観智院本類聚名義抄和音分韻表』(鎌倉時代語研究3、1980年)

12) 次の複製・模写および文献を参照した。

築島裕編『長承本蒙求』(汲古書院、1990年)

* 本稿の用例は上記の複製と模写を参照して掲げたが、蒙求諸本については下記の文献も重要である。

・佐々木勇『日本漢音の研究』資料篇『蒙求』十本 分紐分韻表』(汲古書院、2009年)

13) 小倉肇『続・日本呉音の研究』(和泉書院、2014年) 研究編第 I 部 006 頁 10-22 行に準拠した。

14) 当該字に声点を差していない、あるいは仮名音注がない場合、必要に応じて□を補う。以下同じ。

15) 沼本克明『平安鎌倉時代に於ける日本漢字音に就ての研究』(武蔵野書院、1982年) 531 頁 08-11 行

* 当該部分には注 7 (535 頁 17-18) が付されている。ここに引用し掲げる。

「本稿で「色葉字類抄」を主資料の一つとして取挙げなかったのは、正にこの理由に依るのであって、色葉字類抄の掲出字には要するに規範的な観点から声点が打たれているのであって、当時の生の姿を必ずしも伝えていないと考えられるのである。」

16) 藤本灯『『色葉字類抄』の研究』(勉誠社、2016年) 465-550 頁

* 第五章の「国語資料としての『色葉字類抄』」を参照。なお、仏法部語彙 226 語を掲出している中で、入声軽と認定した「12 忍辱 [平入軽] シノヒハツ／ニンニク／僧侶分／又慈悲分」(ニ前田上 40 オ) を見出すが、これは入声と認定すべきであろう。手書きの「辱」が縦長になるため、下部「寸」の右下よりやや上に差声したと思われる。